



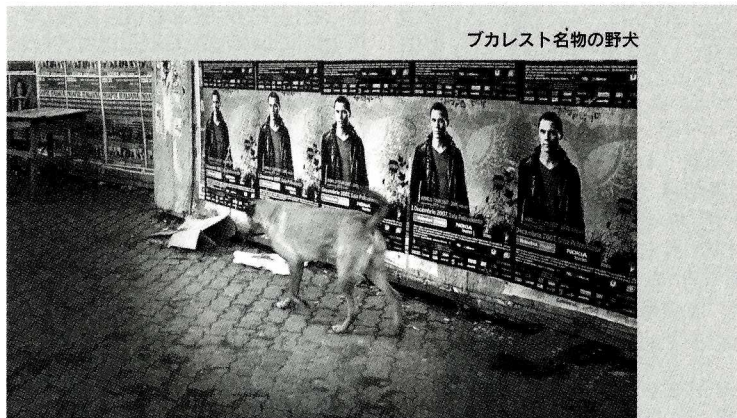
## お犬様とEU加盟

新免 光比呂 (しんめん みつひろ)

本館民族文化研究部

### 人命を脅かす動物愛護

ルーマニアに住む友人が野犬に襲われた。狂犬病の注射を受けるため、パニックのなか奔走したらしい。狂犬病とは、イヌ、コウモリなどを介して起こる伝染病で、感染してから二四時間以内にワクチンを注射しなければ死亡率が高い。わたしは直接に知るだけでも野犬にかまれた人はこれで四人目である。二〇〇六年一月には邦人男性がブカレストで野犬にかまれ、



失血死する事件も起きている。ルーマニアで野放しにされたイヌは全国で推定二〇〇万匹、そのうち首都ブカレストでは約一〇万匹の野犬がいるという。

二〇〇五年には同国内で二万人以上がイヌに襲われ、当局は駆除に乗り出そうとした。しかし、対策は進んでいない。その原因は「ヨーロッパ」からの動物愛護要求のためだ。急先鋒は、フランスの元有名女優。二〇〇六年一月、動物愛護活動家でもあるこの女優は駆除計画に抗議して声明を出し、ルーマニア当局を非難した。個人の声明に過ぎないが、背後にはヨーロッパの動物愛護の大きな勢力がある。むしろ、年間五〇万に近いイヌやネコが保健所で「処分」される日本も大きな顔はできない。身勝手なペットブームは、生きとし生けるものへの盲流である。だが、市民が恐怖におのきなながら暮らす動物愛護もいかなるものか。

### 「文明」による野蛮

他方、イタリアではルーマニア人が襲われている。イヌに、ではない。移民を排斥しようとする人間に、である。イタリアでは、二〇〇七年一月のEU加盟後、ルーマニアからの移民が急増している。言語と文化の親近性から、イタリアはルーマニア人の出稼ぎ先としてもっとも好まれる国のひとつ。公式資料によるとイタリアで働くル

ーマニア人の数は五〇万人に達する。

入国したルーマニア人による犯罪も多発しているらしい。さらに二〇〇七年一〇月、イタリア人女性に対するルーマニア人による強盗レイプ殺人事件が世論に火をつけた。ルーマニア人襲撃もその影響である。他方、イタリア政府は市民の安全を脅かすと思われるEU市民の追放を認める法令を十一月一日に定めた。その結果、法令制定後三日間でイタリアの七都市から三九人のルーマニア人が追放処分となった。EU加盟国の国民は域内の自由な移動が認められるのが建前である。しかし、ルーマニア人は例外のようだ。

EU加盟によってルーマニアは、ヨーロッパへと「回帰」した。「野蛮」な社会主義から解放されたというなら、喜ばしいことである。しかし、「文明」による野蛮は、ヨーロッパのそこかしこに散在している。植民地主義、人種主義、反ユダヤ主義、移民排斥。EU加盟で、その矛先はルーマニアにも向けられた。もとよりルーマニアにも差別はある。ロマ(かつてジプシーとよばれた)の人びとへの蔑視も否定できない。ルーマニア当局は、イタリアにおけるルーマニア人移民と犯罪者の区別を強調する。これは犯罪者をロマと関連づけて、誠実で勤勉な「本場の」ルーマニア人と区別しようというものだ。そこには差別のいれこみ構造ともいへべき、人間社会の本性がある。